

甲状腺検査の結果について



同封にてお送りしました、「県民健康調査」甲状腺検査の結果について、より詳しくご説明いたします。

この検査は、甲状腺にのう胞や結節(しこり)などがあるかを調べるものです。のう胞や結節の大きさや状態によって判定し、お知らせしております。

B判定・C判定の方は、二次検査の受診をお勧めします

B判定

20.1mm以上ののう胞や5.1mm以上の結節を認めた場合

C判定

甲状腺の状態等から判断して、直ちに二次検査を要する場合



二次検査ということでご心配かと存じますが、多くは良性のものです。詳しくは中面をご覧ください。

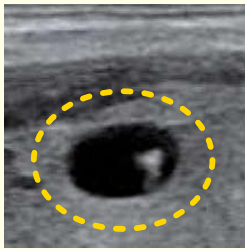
福島県・福島県立医科大学





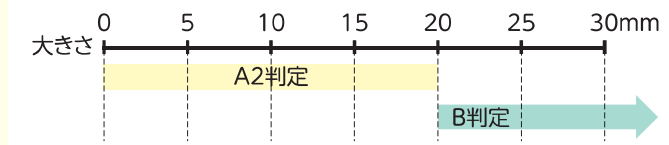
「のう胞」と「結節」について

のう胞



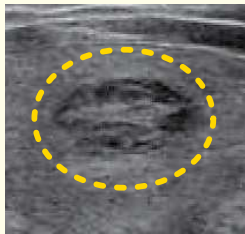
- 袋の中に液体がたまったものです。
- 多くの方が複数もっており、その中でも最大のものの大まかなサイズをお知らせしています。
- 数やサイズが頻繁に変わります。
小学生～高校生で最もよく見られ、大人になるにつれて消えていくことがあります。

のう胞あり → のう胞なし → のう胞あり



のう胞自体は心配のないものですが、20mmを超えるとのどが圧迫されるような症状が出る可能性があります。

結節 (しこり)



- 中に細胞が詰まっています。
- 良性と悪性(がん)がありますが、多くは良性です。
- 年齢が高くなるほど多くの人に見られます。



一般的には5.1mm以上の結節が発見された場合は、二次検査での詳しい検査をお勧めしています。

のう胞の中に結節(しこり)がある場合は？

のう胞の中に中身が詰まった結節の部分(充実部分)がある「充実部分を伴うのう胞」といわれるものは、この検査では全て結節扱いとしています。

例えば… 図のように、のう胞の中にある結節の大きさではなく、結節を含むのう胞全体の大きさを記録します。
10mmののう胞の中に5mmの結節が認められる場合、「10mmの結節」とみなしています。(=B判定)

充実部分を伴うのう胞の大きさ

10mm



のう胞内のしこりの大きさ
5mm



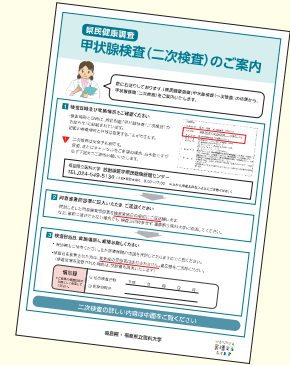
二次検査について

● 二次検査までの流れ

二次検査では、より精密な超音波検査、血液検査、尿検査を行います。
また、必要と思われる方には、**穿刺吸引細胞診**も行うことがあります。
二次検査に関しては、追ってお送りする甲状腺検査(二次検査)のご案内をご確認ください。

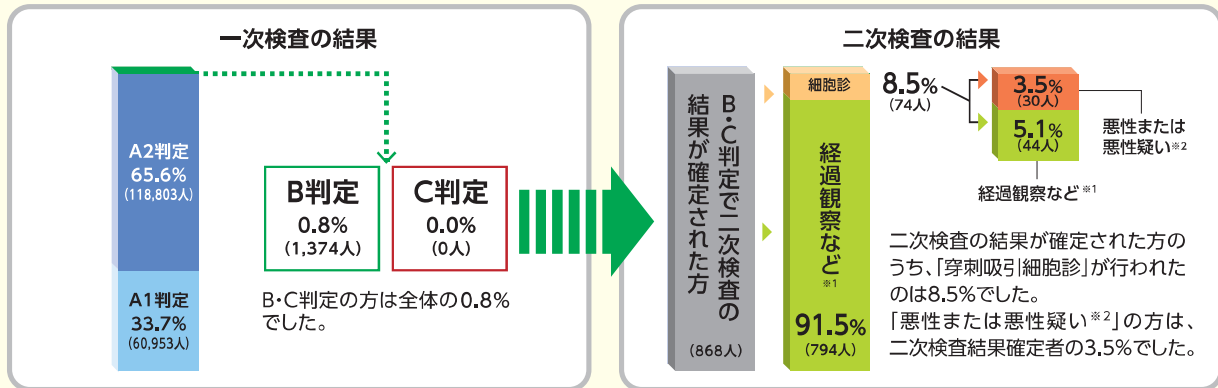
甲状腺の結節は非常にゆっくり大きくなるものが多く、必ずしも見つかってすぐに検査が必要というものではありません。二次検査のご案内が届くまでしばらくお待ち願います。

※すぐに検査が必要と思われる方にはできるだけ早くお知らせしております。



● 本格検査(検査4回目)の検査結果について

※令和2年9月30日現在 ※四捨五入の関係で合計が100%にならない場合があります。



※1 **経過観察など** 現時点では治療の必要は無い方。状態に変化が無いか、定期的に診察し見守ります。

※2 **悪性または悪性疑い** 細胞診の結果、悪性(がん)またはその疑いがある方。(※手術後の病理検査を経て確定診断となります)

甲状腺がんの特徴

- 日本の甲状腺がんの90%以上は乳頭がんです。
- 子どもではさらに乳頭がんの比率が高くなります。
- 乳頭がんは発育が遅く穏やかな性質で、命に関わることは非常にまれです。
- 初期段階ではほとんど自覚症状はありません。
- 治療方法は、主に手術となります。
- 抗がん剤を使用することはほとんどありません。
- 手術の場合、通常1週間程度で日常生活に復帰できます。
- 乳頭がんは腫瘍の大きさや状態などから手術をせずに「経過観察」することもあります。

よくあるご質問

Q 二次検査は有料ですか？

A 二次検査は無料です。検査の結果、治療や経過観察が必要になった場合は通常の保険診療に移行します。保険診療による医療費のご負担は現在住民票をお持ちの自治体の制度によります。なお、検査後に生じた経済的負担を支援する福島県の制度(県民健康調査甲状腺検査サポート事業)が実施されています。詳しくは、福島県保健福祉部県民健康調査課【024-521-7958(8:30~17:00 土日・祝日・12/29~1/3を除く)】までお問い合わせください。

Q 前回二次検査を受けたのですが、また受診した方が良いでしょうか？

A 今回の結果は、二次検査をお勧めするものですが、現在治療を受けている方は、二次検査が必要ないこともありますので、状況に合わせてご希望の有無等を返信用はがきにてお知らせください。なお、これまでB判定で二次検査を受診されていない方は、二次検査の受診をお勧めします。

Q 福島県で見つかっている甲状腺がんについて、放射線の影響はどうですか？

A 先行検査(検査1回目)で見つかった甲状腺がんは、被ばく線量がチェルノブイリ事故と比べて総じて小さいこと、リスクが高いといわれている原発事故当時年齢の低い方の発症が少ないこと、福島県内で発生率に地域差がないことなどから、「総合的に判断して、放射線の影響とは考えにくい」とされています。本格検査(検査2回目)で見つかった甲状腺がんについては、線量の増加に応じて発見率が上昇するといった一貫した関係(線量・効果関係)は認められないこと、発見された甲状腺がんの年齢分布が主に低年齢で多く発見されたチェルノブイリ事故とは異なることなどから、「現時点において本格検査(検査2回目)に発見された甲状腺がんと放射線被ばくの関連は認められない」とされています。しかし、甲状腺への放射線の影響をみるには長い期間が必要です。そのため、希望者に対する甲状腺検査を長期にわたって実施し、今後も福島県の子どもの健康を見守ってまいります。

二次検査専用「WEB相談」のご案内

二次検査を受診されるまでのご質問・ご相談をWEBで受け付けております。なお、お返事は1週間程度かかることがありますので、予めご了承ください。下記アドレスの専用ページに、必要事項をご記入の上お問い合わせください。

<https://www.fmu.ac.jp/kenkan/nijikensa/>



二次検査専用「WEB相談」問い合わせフォーム

1. 甲状腺検査実施番号、検査対象者の氏名、生年月日、連絡先のメールアドレス等を入力してください。
2. 性別、年齢、職業、検査結果を入力してください。
3. 検査結果が「B判定」の場合は「B判定」を選択してください。
4. 検査結果が「C判定」の場合は「C判定」を選択してください。

甲状腺検査実施番号*	[入力欄]		
※実施番号は検査結果通知書の右下下部に記載されている欄の番号です。			
お名前(検査対象者)	姓: [入力欄]	名: [入力欄]	
フリガナ(検査対象者)	姓: [入力欄]	名: [入力欄]	
生年月日(検査対象者)	[年選択] [月選択] [日選択]		
性別(検査対象者)	[性別選択]		
職業(検査対象者)	[職業選択]		
お名前、住所(医師、放射線科医師、検査実施センター長)	姓: [入力欄]	名: [入力欄]	職種: [入力欄]
[メールアドレス]			
メールアドレス*			
[メールアドレス]			
※お名前、住所、電話番号、メールアドレスは下記住所(〒)と一致する必要があります。【@fmu.ac.jp】このメールアドレスのメールアドレスを登録すると、お問い合わせの受付状況が確認できます。			

甲状腺検査結果の医学的なご質問に関する専用ダイヤル

対象の皆さまや、ご家族の皆さまからの検査結果に関するご質問や医学的なご質問にお答えするために、次の専用ダイヤルを設置しております。

TEL024-573-0205
(9:00~17:00 土日・祝日・12/29~1/3を除く)

※原則として医師から折り返しお電話を差し上げます。折り返しのご連絡まで数日いただく場合がございますので、ご了承ください。



一般的なご質問(次の検査時期や住所変更等)は、右記問い合わせ先までご連絡ください。

【お問い合わせ先】

福島県立医科大学 ふくしま国際医療科学センター
放射線医学県民健康管理センター

TEL024-549-5130 (9:00~17:00
土日・祝日・12/29~1/3を除く)

※おかけ間違いのないようご注意ください。

甲状腺検査の最新の情報は、下記Webサイトでご覧いただけます。

<https://fukushima-mimamori.jp/thyroid-examination/>

